『サラダ記念日』が台湾に与えた影響

Yenhung LAI (賴衍宏 : Associate Professor of Department of Japanese Language
and Literature, Providence University)

✉ yhlai@pu.edu.tw

(台湾) 静宜大学日本語文学系副教授。東京大学で2008年「日本語時代の台湾短歌——結社を中心にした資料研究」で博士号取得。比較文学。主著に『日本文学管見——和習・短歌・作品論』(新北：尚昂文化, 2015)、「台湾における皇民化運動——政策の形成と短歌の広がり」『跨境/日本語文学研究第9号』(ソウル：高麗大学校日本研究センター, 2019) など。

The Influences of *Salad Anniversary* on Taiwan

The book *Salad Anniversary* (1987) by Tawara Machi sold a million copies. This study attempts to illustrate the possible influences of *Salad Anniversary* on Taiwanese people's creative activities, through a comparative literary analysis. To be more specific, I'd like to explore the context and significance of the reception of Tawara Machi's literary works in two fields, namely Taiwanese tanka poetry and Chinese pop music platforms.

Keywords Hwa-Kang World of Tanka(華岡歌壇), Taiwanese World of Japanese Tanka Poets(台湾歌壇), Winnie Hsin(辛曉琪), Scent(味道), Chien Yao(姚謙)

1 はじめに

俵万智『サラダ記念日』(1987、東京：河出書房新社)というミリオンセラーについては、好評もあれば批判もある。前者の代表的なのは日本の歌人穂村弘が執筆した「俵万智」¹の「口語会話体を大胆に駆使した文体の魅力が、描かれた場面や感情の普遍性と相俟って、短歌になじみのない読者をも強く惹きつけたのである」という点に尽きるだろう。後者は、日本歌壇の評論家である沢口芙美が執筆した「俵万智」²で示された「詩的修辭力の弱さ、文学的濃のなさ」という「弱点」がある。また、台湾の研究者彭春陽の書いた「日本の国民女歌人俵万智」³における「旧制度の擁護者たちは、過度の口語体が詩の言語を破壊し、即物式の描写も深みを欠いている」という問題も横たわっている。しかし、「歌壇の内と外とに大きな影響を与えた」⁴というエネルギーは否めない事実である。ここでは、主に材源論の立場から、俵ブームが台湾の創作活動のためにどのような原資を提供したのか、解明に努めたい。

1 大島史洋(他編)『現代短歌大事典』(東京：三省堂、2000)、pp.384-385.

2 浅井清(他編)『短歌』(東京：明治書院、2000)、p.386.

3 『世界文学』6、麦田、2002.12)、p.114. 原文：「衛道人士对俵万智大加撻伐，認為過份的白話，破壞了

詩的語言，及物式的描写，欠缺深度」

4 島津忠夫『現代短歌・内と外』(東京：雁書館、1992)、p.49.

5 孤蓬万里『台湾万葉集中巻』(台北：吳建堂、1988)、pp.2-3.

6 録音テープは細川吳港によるものである。

2 受容の実例

以下、二つの歌壇(短歌と流行歌)からこれについて検証してみたい。

2.1 短歌界

孤蓬万里(1926~1998)は台湾版『台湾万葉集』(非売品)の上梓に際して、「今評判になつて居る「俵万智」の「サラダ記念日」が日本の現代短歌を代表するものであるとする人たちには、この三巻を読んで戴きたいと希ふものである」⁵と書いている。

次いで、「東洋文化研究会じゃすみん倶楽部」で講演⁶(1993年8月21日、銀座並木通りのニューキャッスルにて)を行った際に、孤蓬万里は「俵万智さんなどがやられている「ライトバース」という新しい傾向」を取り上げて、その特色を次のように述べている。

俵万智さんはそのわりと、その、そういった会話調とかいったそういうのを取り入れてですね。で、三十一文字の間にだいたい半分くらい口語調を入れて恐らくそういったところ括弧入れるんだけど、それはもう括弧も省略してね。

その基準に符合した俵の歌が「「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人の

- 7 俵万智『サラダ記念日』
(東京：河出書房新社、
1987)、p.18.
- 8 孤蓬万里『「台湾万葉集」
物語』(東京：岩波書店、
1994)、p.24.
- 9 呉建堂『花をこぼして』
(台北：呉建堂、1981)、
p.77.
- 10 (東京：朝日新聞社、
1995)、p.288.
- 11 『台北歌壇』127(孤蓬
万里、1998.3)、p.71.
- 12 蕭翔文『三つの祖国』
(台北：蕭翔文、
2006)、p.124.
- 13 頼衍宏「專訪「台北歌壇」
前任代表高阿香女士」
(『留日同学会刊』11、日
本奨学金留学生聯誼
会、2005.11)、p.14.
原文：「俵小姐の暢銷
書『沙拉記念日』我在
會晤前已經先行讀過」

いるあたたかさ」⁷である。孤蓬万里が編著した「台湾万葉百人一首」⁸を見ても、徐奇璧の「「ハイありがと」錢渡す吾に「ハイありがと」と運ちゃんも云うとある小春日」が含まれており、「この一首、ちょっとしたライトバース調」と批評している。確かに会話句＋同じ会話句＋暖かく詠み収めるという構成法が共通しており、「ライトバース調」という選評が当を得ていると言える。一見して俵歌の詠み方に従って徐歌が出来たように考えられてしまうだろう。しかし、徐歌の初出「「ハイ、ありがと」錢渡す吾に「ハイ、ありがと」運ちゃんも云ふ、とある小春日」⁹を確かめると、俵歌に先んじたものであった。つまり、孤蓬万里の指摘は、俵歌以前に発表済の徐歌を、俵歌の持つライトバース性が濃厚に見出される作品として解釈するという、いささか時系列を錯誤した批評であったのである。

一方、『台湾万葉集』は『サラダ記念日』と同等に見られる傾向がある。当時集英社編集長である細川呉港の厚意により集英社「台湾万葉集」単行本愛読者カードを調査することができた。そのうち、神奈川県在住の堀江征太郎(1994年当時51歳)は「技巧に走らず卒直に日常を詠んでいて、サラダ記念日と同じ感動を受けた」という共通性を見出している。また、無署名者も「読んで面白く、かつ、楽しい。わかりやすい。(日本の歌人は、むづかしい歌を詠んでさっぱりわからない。かと思うと、某女史のような会話調の青春短歌がもてはやされ、この本は新鮮だ!!)」としており、俵万智ブームと対比している。そうした観点と同調するように、大岡信『大岡信の日本語相談』¹⁰の巻末座談会を見ると、丸谷オ一の「戦後の日本文学における短歌の二大事件というのは、一つは俵万智さんの出現、もうひとつは『台湾万葉集』ではないかしら。もう一つあると三題噺になるんだけど……。 (笑い)」という発言がある。孤蓬万里「玉石混淆(亡き妻に捧げる)」¹¹は丸谷の位置づけ方を重点的に引いて、「皆が笑いで答えて居るのは嬉しかつた」としている。出版部数だけを比べると、二百万部を超えた『サラダ記念日』に対して、集英社再版の『台湾万葉集』は結果的に六刷しかない。かなり評判に出ているが、とても同列に語れるものではない。孤蓬万里が嬉しく感じたのは、出版部数のわりにベストセラーとともに並び称される名声を得たことであろう。ただ、『台湾万葉集』に対して、台湾歌壇の重鎮である蕭翔文が「殖民と白色恐怖を経し叫びずっしりと重し『台湾万葉集』」¹²と評していることも見逃すことができない。内容的に『サラダ記念日』の軽さと比較すると、『台湾万葉集』の重さが浮き彫りになりそうである。

孤蓬万里が急逝した後、「台北歌壇」(後に「台湾歌壇」と改称された)の第二期代表(1999年1月~2003年12月)に選ばれた高阿香は1999年11月の8日間「台湾万葉集女流歌人訪日団」を引率した。11月19日に俵万智と交流することになった。「俵さんのベストセラー『サラダ記念日』は、面会する前にすでに読了しておいた」¹³という回顧からすれば、事前準備が進められていた。日本交流協会(当時の通称

で、現・公益財団法人日本台湾交流協会）に提出した高阿香「台湾万葉歌人の訪日記(1)」¹⁴によると、「俵万智さんは私の半分の齢しかない若い女性、睫毛の長い大きな眼をぱちぱちさせ乍らの応答は凛としていて」という第一印象が語られている。続いて「台北歌壇5名の作品を」「選んで批評なさった」という実力を見せ、「若い人達だけの結社を作って新しい短歌の詠み方を試みたいと思いませんか」という高の問いに対して、「い、え年輩の人の中で大事にされると言うのもよい事だと思います」という俵の答えがあったという。そして、「だんだん打ち解けて俵万智さんとの懇談は愉快的な雰囲気の中に終わった」と和気藹々裡に終了した、と述べられている。

14 『交流』617(財団法人交流協会, 2000.4), p.9.

15 高阿香『歌文集 心の支柱』(台北: 高阿香, 2005), p.251.

16 林美『作品集 私の十三年』(台北: 林美, 2004), p.116. 所収「台湾万葉歌人訪日記」

図1 高阿香と俵万智¹⁵

一方、「口語にて短歌を作れば何となく楽しいと言へば万智さん笑ふ」という作品も団員である林美の歌集¹⁶に収録されている。1990年代後半の台湾の歌壇にとって、交流すべき女流歌人リストのうち俵が最上位に置かれているのである。

俵万智の「家族への葉書」という文章は国際学友会日本語学校『進学する人のための日本語中級』(2000、東京: 国際学友会)に採録されており、それがまた『進学日本語中級 I』(2002、台北: 大新)に収められることで、台湾の日本語教育の現場でも採用されている。読解力を養成する中で、台湾の一般的な学習者も俵のラ

17 注8, p.25.

18 吳建堂『文武仁の旅』(台北: 吳建堂, 1981), pp.191-193. 初出は『山の辺』10-5(山の辺短歌会, 1979.5). 正式の学科名は「東方語文学系」であり、今の「日本語文学系」の前身である。

19 蔡華山「「台湾歌壇」の伝承的考察」(『台湾日本語文学報』20, 台湾日本語文学会, 2005.12), p.26.

20 蔡華山(撰)「華岡歌壇」(『中日文化』21, 中国文化大学日文系日研所, 2002.5), p.273. 所収

21 注7, p.125.

22 注20, p.276. 所収

23 『中日文化論』24(中国文化大学日文系日研所, 2006.6), p.135.

24 注7, p.16.

イトバースに触れる機会があるのである。この際、創作力を追求する実例として「台湾万葉百人一首」の歌人の一人である蔡華山に関する「若い台湾の学生に短歌を作らす試みをつづけている」¹⁷という紹介は注目に値する。その指導は前期と後期に分けることができる。前期に関しては「最近、台北歌壇の同人の一人である蔡華山氏が、その教鞭を執って居る東呉大学東方語学系に於て、学生に和歌らしきものを作らせる事に成功して居る」¹⁸と孤蓬万里に認められている。その代表作にざっと目を通すと、于乃明の「口聞かぬ竹馬の友よ何故聞かぬ君に告げたき事の多きに」をはじめ文語脈の歌が多数を占めている。蔡華山「「台湾歌壇」の伝承的考察」¹⁹によると、孤蓬万里側から「いろいろとアドバイスしてくれた」お蔭で成果をあげることができたが、「一番大きな収穫は学生達に「やればできる」という信念を持たせることであろう」という。後期に至っては、口語脈を重視する方針に転換した。中国文化大学で筆札を授けている蔡華山の特別講演「台湾における和歌の伝承—日本語学科学士の和歌について」(2001年8月18日、中華民國日本語文学会第151次例会)を聞いた際に、筆者は講演内容を録音しておいた。それによると、蔡は『サラダ記念日』を礼賛するばかりでなく、俵ファンであることを打ち明けている。

口語、しかも五七五でまとめてしかもポエジーが非常に強い。日常の生活を我々に伝えているこの人今ね、本をもうたくさん書いてるね。もう35冊くらいになるまあ、そのうち私は25冊くらい持つてる。

同講演で「俵万智以降の歌」として、北台湾の大学三校(政治大学・文化大学・東呉大学)の力作を褒めている。そのうち、林環淳の「偶然に知り合ってから君のこと忘れられずに記念日となる」²⁰を読むと、女性が男性を「君」と呼び、それで「記念日」が決まったような詠み方は、『サラダ記念日』の表題歌「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日」²¹と同様である。もう少し補足すると、次の二首が目を引きく。

〈1〉「いつ帰る」「まだ決めてない」新年もこんな電話をしている親子(徐国章)²²

〈2〉「ただいま!」と声を掛けても「おかえり」と答える声のない寂しさよ(王薇婷)²³

『サラダ記念日』²⁴の電話詠——「「また電話しろよ」「待ってろ」いつもいつも命令形で愛を言う君」がある。「問い1」+「問い2」を連発し、最後に体言止めで終わる。〈1〉も電話詠であり、しかも「問い」+「答え」で詠み起こして、体言止めで詠み収めている。俵歌の構造を踏まえつつ、俵の恋愛の歌を徐は親子愛の歌へと改

作したのではないだろうか。〈2〉の場合、「挨拶の引用+動詞、答えの引用+動詞+名詞+存否+形容詞の名詞化」という構成法は、「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ²⁵を参照した結果だと考えられる。俵万智「家族への葉書」²⁶を確かめると、「寒いね」詠についての自解として「私は寂しさのあまり、ホームシックという呼吸困難にかかりはじめていた」と吐露している。それに共鳴を覚えて、〈2〉における「寂しさ」が生じて、日本語教材を通じて語法と寂寥感を内包する一首を獲得したと言えよう。

蔡華山の指導(創作と論文)を受けた李巫秀珠「吳建堂撰『台湾万葉百人一首』之時代意義」²⁷によると、「更に若くて優秀な日本の和歌作家である俵万智を学校に招待して指導していただくこともできる」という提案をしている。蔡華山²⁸も「俵万智の口語和歌が一番よい教材を提供してくれている」と強調している。残念ながら、待望されるままいまだに実現されていないが、李巫秀珠²⁹は現実的に「俵万智の和歌を教材にして、大学の日本語学科に「和歌クラブ」を作れば、皆で和歌を楽しめるようになるのではないだろうか」と、蔡の指導路線に追随する決意を示している。

2.2 華語流行楽壇

『サラダ記念日』が台湾における日本語文学圏外の人々にも共感を呼び起こすに到った原因としては、次の中国語訳本四点の果たした役割が重要である。

- 〈1〉文経社編訳群(訳)『サラダ記念日』(1988、台北：文経)
- 〈2〉張澄(編)『サラダ記念日』(1990、台北：世茂)[中英対照]
- 〈3〉蔡雅娟(訳)『サラダ記念日』(2002、台北：新雨)
- 〈4〉陳系美(訳)『サラダ記念日』(2018、台北：大田)

〈1〉については、「誤訳」と「訳漏れ」³⁰という二大問題を抱えていると言わざるをえない。文経社の呉榮斌³¹社長によると、「俵のスタイルが好きな台湾作家がすでに数人いて、類似した作品を創作した。そのうちレコードと歩調を合わせて出版した人がいて、良い成績を上げている」という。その一例として、筆者は「『サラダ記念日』と『味道』」³²という短文で、1994年に歌手の辛曉琪がリリースしたCDアルバム「味道」を挙げたうえで、表1における①~⑦を取り上げ、特に①~④は『サラダ記念日』の思い出す君の手君の背君の息脱いだまんまの白い靴下から換骨奪胎したものだと推測したことがある。それを立証するために、もっと詳しく論拠を提出せねばならない。ヒットソングとなった同名の「味道」は、中国語流行音楽界で大家とされる姚謙(1961~)の作詞だが、姚謙「一個人的品味」³³を見れば、その歌詞を書くことになった「源」は次の通りである。

²⁵ 注7, p.18.

²⁶ 国際学友会日本語学校編著『進学日本語中級』1(台北：大新, 2002), p.31.

²⁷ 『中日文化』21(中国文化大学日文系日研所, 2002.5), p.215. 原文: 「甚至可邀請日本年輕優秀的和歌作者俵万智來校指導」

²⁸ 「『万葉集』と『台湾万葉集』の比較的考察—生活歌の諧謔性について」(『中日文化』22, 中国文化大学日文系日研所, 2003.5), p.234.

²⁹ 「『台湾万葉集』の研究」(台北: 中国文化大学修士論文, 2003), p.110.

³⁰ 頼衍宏「〈サラダ記念日〉的中訳問題」(『静宜語文論叢』12-1, 静宜大学外語学院, 2019.6), p.73.

³¹ 余元君(訳)『風の手掌』(台北: 文経社, 1991), pp.10-11. 所収。原文: 「对俵小姐的一些感受与NEWS——從「サラダ記念日」談起」。原文: 「台湾也有幾位作家喜歡這種詩作風格, 創作了類似的作品。尤其有一位還配合唱片出版, 締造了很好的成績」

³² 『和流』4(銘伝大学応用日語学系, 2002.5), p.15.

³³ (台北: 時報文化, 2013), pp.25-26. 原文: 「歌詞的来源」「有一回我得了重感冒, 反应的病理状态就是嚴重的鼻塞」「失去嗅覺讓我對很多事情的反应變得極為混沌」「那一周我就掉到了一個没有味道的地獄裡」「這也讓我開始回想許多的感情經驗, 貌似也與味道息息相關」「特別是愛情, 於是我用這樣的感想寫了這首歌」

重い風邪をこじらせたために、ひどい鼻づまりになってしまい、嗅覚を失ってしまった。その一週間、匂いのない地獄に落ちてしまった。そこで色々な感情の経験が思い起こされ、それらは匂いと密接な関係にあるらしく見えた。特に恋の方面であり、故にこのような感想でこの歌を書き上げた。

そうした「創作過程はいっそうつまらない」³⁴と評されているが、「かくれたる材源の存在」³⁵はないだろうか。中国現代作家木心(1927~2011)の手法を参考にすると、研究者である盧虹貝が定義したとおりその「テキスト再生」とは、作者が他人の書いた著作物(原文)を原材料とし、それを多少なりとも書き換えて自分の著作物(再生テキスト)を形作るプロセスを指す。また、「少しの再生テキストの中に、木心は提示しないどころか、わざとオリジナル制作(すなわち「テキスト再生」なし)の仮象を造出する。かかる場合、筆者は「逆方向暗示」と名づける」³⁶という指摘もある。木心の状況と同じように、姚謙の材源が他所にある可能性はありそうだ。リフレインだけを訳本<1>における関連作品と並べてみよう。(下線は筆者による。以下同じ)

表1 「味道」の材源

	「味道」	<1>『沙拉紀念日』(頁)
①	想念你的笑	在人潮中突然想起你說的笑話, 不知不覺笑出聲來。(57)
②	想念你的外套	悄悄穿起沾著你的味道的外套, 故意擺出詹姆斯狄恩慣有的動作。(56)
③	想念你白色襪子	看著你到處亂扔的白襪子, 想起你的手、你的呼吸、你的臉。(76)
④	和你身上的味道	海風中夾雜著你的味道, 突然被你抱在懷中的我, 有如貝殼般地僵硬。(29)
⑤	我想念你的吻	下午五點半, 我們在沙灘上追逐擁吻, 遠山含笑俯看。(29)
⑥	和手指淡淡煙草味道	我愛你為我剝牡蠣殼而滲著淡淡血色的手。(28) 偶爾才吸一口的香煙, 也有令人無法了解的煙霧。(96)
⑦	記憶中曾被愛的味道	你用過的梳子穿透我的髮梢, 耳際隱約泛著男人的味道。(30) 被愛的記憶有些透明, 我還是單身一個人。(111)

四回ほど繰り返される「想念你的」は、③の「看著你到處亂扔的白襪子, 想起你的手、你的呼吸、你的臉」³⁷を摂取した跡が認められる。思い慕われる人の「笑」「外套」「白色襪子」「身上的味道」「吻」「手指淡淡煙草味道」「記憶中曾被愛的味道」という七大特徴も、例外なく俵の歌々に詠み込まれた事物に他ならない。つまり、俵のユニークな語彙・語法を踏まえつつ練り上げられたのが「味道」の世界なのではないだろうか。1995年、「味道」は「香港十大中文金曲獎」の「優秀國語歌曲獎——金獎」³⁸に輝いた。当該歌詞については、「味わい深い余韻を残す」³⁹とコメントさ

- 34 小新『每一首歌都有TA要去的地方』(上海:上海文化, 2015), p.164. 原文:「《味道》, 創作過程更是無趣」
- 35 亀井俊介編『現代の比較文学』(東京:講談社, 1994), p.132. 所収小堀桂一郎「材源研究の意味——芥川龍之介・里見弴・その他」
- 36 盧虹貝「木心文学創作中的“文本再生”現象研究」(南京:南京大学修士論文, 2014), p.3, p.40. 原文:「本文所述“文本再生”, 是指作者以他人的文字作品(原本文)作為原材料, 在此基礎上進行程度較小的改寫, 形成自己的作品(再生文本)。」「在一些再生文本中, 木心不僅不作出提示, 還故意營造出“原創”(即不存在“文本再生”)的假象。此類情況, 筆者名之為“反向暗示”」
- 37 原歌:「思い出す君の手君の背君の息脱いだまんまの白い靴下」(注7, p.117.)
- 38 尤静波編著『現代音楽教育叢書 中国流行音楽通論』(北京:大衆文芸, 2011), p.230.
- 39 袁青「姚謙死迷川久保玲 偶爾出軌偶爾放肆」(『聯合報』1997年7月12日)47面. 原文:「歌詞「味道」「透着耐人尋味的余韻」

れているが、小論の指摘により『サラダ記念日』からの巧みな素材の借用が明らかになり、それによってその余韻は一層深みを増し得た、というべきである。

女心の代弁者として華語音楽界の名手になった姚謙は、またイギリスのレコード会社EMI百代の総支配人を兼任する一時期があった。その傘下に所属した歌手として許茹芸が知られる。姚は許の新ボスになったという記事⁴⁰が確かめられるが、その間に許の詩集『此時快樂的代価』(2002、台北：紅色文化)が上梓された。劉衛莉「許茹芸の詩 紅到日本 風格酷似女詩人俚万智 日商想翻訳 泰人也有意」⁴¹によると、「許の詩風は「俚万智」と近くて、感情がこまやかで意味深い」と日本の出版社に讃えられた許は、心の中ではひそかに喜んだあまり、『サラダ記念日』を読んだことがあり、俚の作品が好きだと豪快に打ち明け、『サラダ記念日』を許常德から贈られた後、自分でも複数の訳本を購入したうえで読んでいる」という読書遍歴を言明している、という。許の白話詩のうち、代表的な一首「(誦、你的體味)」⁴²を取り上げてみよう。

一種很適合你的香味
那曾經 是
我 喜歡男人 的 味道
塗抹在 你 的肌膚
讓 酒精香水
滲入你的血液
再從 你 喘息後的汗水
揮發
經過 我的嗅覺
融合成一種
很適合你的 體味

表1における訳本<1>の29・30・56頁を見ると、「你的味道」という共通したキーワードがある。それを取り入れたのが、許の「你的」「味道」ではないだろうか。しかも28頁の「我愛你」と許の「我喜歡」「你」を吟味すると、程度の差こそあれ相手に好ましい感情を抱くのは同じである。この一件から、訳本を媒介として『サラダ記念日』が華語詩壇にも新風を吹き込んだことが確認できる。姚謙自身の作詞と、周辺歌手の詩作と相俟って、俚調が中国語流行楽壇内外にわたって影響を及ぼしていた実態はほぼ明白になった。ちなみに、2014年11月27日に、「短歌」という名を冠して売り出された中国語不定型詩集—鍾立風『短歌集=Tanka』(2014、桂林：広西師範大学出版社)のために、姚謙は北京の對外経貿大学に赴き、この詩人と対談を交わしている。現代の中国でも、姚は短歌のよき理解者として認められているのである。

40 許若薇「許茹芸走過坎坷路」(『中時晚報』2001年6月18日)17面。原文：「許茹芸的新老聞」

41 「聯合報」2003年6月9日、D1面。原文：「日本書商看到後很喜歡，主動与她聯繫，洽談翻訳成日文版的計畫」「對方認為她的風格，跟日本一位女詩人俚万智很接近，情感都相當細膩深刻。她聽了心裡暗自窃喜，「我讀過她的詩集『沙拉紀念日』，很喜歡她的東西。」她透露，第一本「沙拉紀念日」是發行專輯「日光機場」時，當時的企画許常德送給她的，後來她自己又買了不同的訳本來看。」

42 『此時快樂的代価』(台北：紅色文化，2002)，p.58。和訳すると、次のようになるだろう。(誦する、君の体臭を)
君にとっても合った一種の香り／あれは かつて／あたし 好きな男の 味／お肌に 塗り／アルコール・香水を／お血にしみ込ませ／それから 君喘いだ後の汗から／揮発する／私の嗅覚を 経て／溶け合って 一種の／とても君に合った 体臭になる

43 『聯合文学』406(聯合文学雜誌社, 2018.8), p.41. 原文:「読過以下三十本書告白無往不利」「《沙拉記念日》, 俵万智」

44 『台湾出版と閲読』7(国家図書館, 2019.9), p.63. 原文:「1987年俵万智著《沙拉記念日》詩集, 累計銷售250万冊」

『サラダ記念日』が出てから三十年以上経過した。しかし、決して風化してはいない。孫梓評「孫梓評的告白教戦索引」⁴³の薦めによると、恋人に告白したければ最適な中文図書三十冊のうち、俵万智『サラダ記念日』がリストアップされている。また、林宜和「日本戦後出版業鳥瞰」⁴⁴にも「1987年、俵万智が書いた詩集『サラダ記念日』は250万部を売り上げた」という紹介がある。今後、どのような俵万智の色彩を帯びた流行歌が出るのだろうか、期待をかけてもさほど無駄ではなさそうな気がする。

3 おわりに

短歌はすでに日本文壇では非主流のジャンルとされているが、台湾文壇には想像もつかないほどの浸透力を持っているのではないだろうか。台湾の事例から分かるのは、ライトバースが台湾の短歌界内部に新たな選評基準を提供したばかりか、俵万智と直接に交流を深め、短歌の産出をも促している点である。学生の場合、歌作りに堪能な教授の支援と助力を得ながら、『サラダ記念日』の秀歌をお手本として相次いで真似て、ある水準に達した短歌を発表することができるようになった。芸能界を見ても、俵万智調のライトバースが翻訳を媒介として作詞家によって巧妙に新作中に織り込まれていた。結果、一般大衆も短歌ゆかりの流行歌を間接的ながら享受できた。俵万智の短歌は大衆文化の一部を支えていた、知られざる原資だったと言える。

付記 本稿は台中科技大学「2018亞洲中的日本—從人文・社会・経貿看日本」(2018年5月25日)での口頭発表を加筆修正したものである。

参考文献(Bibliography)

- 蔡華山(2003)『万葉集』と『台湾万葉集』の比較的考察—生活歌の諸諷性について」第22号, p.234. Tsai, Hua-shan(2003)Comparative Studies between "Manyosyu" and "Taiwan Manyosyu"—The Badinage in Daily Life, *Chinese And Japanese Culture* Vol.22, p.234.
- 彭春陽(2002)「日本の国民女歌人俵万智」第6号, p.114. Perng, Chun-young(2002)Japan's national female tanka poet Tawara Machi, *World Literature* Vol.6, p.114.
- 李巫秀珠(2002)「吳建堂撰『台湾万葉百人一首』之時代意義」第21号, p.215. Li Wu, Shou-chu(2002): The Historical Significance of Taiwan Hyakunin Isshu Selected by Wu Chen Tuang, *Chinese And Japanese Culture* Vol.21, p.215.